

イメージを育てる指導のあり方を探る

— テレビ人形劇の視聴を通して —

笹原 裕子

物語番組であるテレビ「人形劇」の視聴において、テレビの映像は、幼児のイメージにどのように働きかけるものなのか、視聴後に見られた遊びのようす、及び、物語の続きを想像して絵話を作るといふ形の表現活動からその一面を伺い知ることにより、幼児のイメージを育てる指導のあり方を探る糸口を見つけ出そうとした。

経験の乏しい幼児にとっては、映像は物語の世界を築いていく手がかりであり、鮮明なイメージを描き出す効果をもつ。

多種多様なイメージの蓄えと定着をはかるとともに、次から次へとイメージを結んでいけるような手だてを探る研究を行った。

は し が き

虚構の世界に遊び、空想を自由に楽しむことのできる幼児期は、想像力の育つ時期であり、また、想像力を育てることは、幼児期の大切な指導のひとつといわれている。

それでは、子どもの想像力を育てる指導はどうあればよいのかと考える時、そこにイメージの問題が浮かび上がってくる。が、「イメージとは何か」と改めて問い直してみると、日頃、安易に使用している「イメージ」という言葉のとらえ方が、漠然とした不確かなものであることに思い至る。いくつかのイメージ論に目を通していても、定義づけるには及ばず、ここでは一応、子どもが「心に描く像」と押さえておくこととしたい。その上で、子どもが想像力を獲得していく基盤となるイメー

ジについて考えてみたい。

豊かな想像力を育てるには、豊かなイメージを育てることが必要である。直接、間接の経験が子どもの心の中に具体的なイメージとして定着し、蓄えられ、豊かに成長していくための指導はどうあればよいか、子どものイメージに働きかけるもののひとつであるテレビという側面から、人形劇番組をとりあげて考えてみることにした。

人形劇は子どもの大好きな番組である。それは、幼児がお話を好むことと共に、テレビによる人形劇は、映像、色彩、音楽、ことば、ストーリーなどがからみ合って、子どもの心に総合的な刺激を与え、心をゆさぶり、子ども達を容易に物語の世界にひき入れる故であろう。また、テレビの映像は、既有経験やイメージの乏しい幼児においては、物語の世界を心の中に築いていく手がかりであり、

鮮明なイメージを描き出させる効果をもつものであると思われる。そこで、実践にあたっては、テレビの映像とイメージのかかわりを探ってみることとした。

実践例

—テレビ人形劇『かசிいうさぎ』の視聴から—

◦対象……岩手大学教育学部附属幼稚園5歳児男17名、女17名、計34名

1. 放送利用月日

- かசிいうさぎ第1回…S. 57. 6. 23
- かசிいうさぎ第2回…S. 57. 6. 30
- かசிいうさぎ第3回…S. 57. 7. 7

2. 『かசிいうさぎ』のあら筋

その昔、ある所で日照りが続き水不足。川という川、泉という泉に水がなくなり動物達は大弱り。どうすべきかを相談、そこへ、日頃から頭がいいと自慢しているうさぎが「井戸を掘ればいい」と策を与える。そこで、みんなで汗水流して協力。が、うさぎだけは怠けて働かない。動物達はうさぎに水を飲ませないことにする。ところが、うさぎは夜中にまんまと水を飲む。交替で見張りを立ててみるが、うさぎの妙なる歌声につられて踊り出して失敗を重ねる。困った動物達が考え出したのがべたべたくつつくター人形。人形にくつついたうさぎは、捕えられ、おしおきにお腹にいっぱい食物をつめこまれ、風船みたいに空に投げ捨てられるという罰を受ける。さて、うさぎはどうなったか……？

(アメリカ昔話より)

3. 視聴とイメージ

(1) 井戸掘りごっこ(砂遊び)の活動から

◦井戸掘りごっこのようす

(6月30日、第2回の放送視聴後に見られた遊び)

- 男児数人が砂場に出る。素手で穴掘りを

している子2人。他の4人はスコップで川のような溝を作っている。(いつものようにダム工事が始まるようす)

- 穴掘りをしていたK男が突然「井戸だ!」と声を上げる。
 - 井戸だ! 井戸みたいだぞ! (K男)
 - 『かசிいうさぎ』の井戸だ。(Y男)
 - 井戸掘りしよう。(K男)
 - ようし、もっと深く掘ろうな。(Y男)
 - 2人でどンドン深く掘っていく。
- そばで川を作っていたN男、Y₂男、K₂男、M男が自分達の活動を中断して見ている。そして、「こっちはからからの井戸だぞ」とY₂男が大声で言う。

- こっちはどンドン深くなってきたぞ。

(K男)

- H男も仲間に加わる。「すげえ、もう僕達じゃだめだ。Y君しかない!」
 - Y君が一番、背が高いからなあ。(K男)
 - Y男は、張り切って腕を入れ、深く掘っていく。
 - 女兒2人も砂場の隅の方で小さい井戸を掘っている。
 - たまたま水の浸み込んでいた場所だったので、砂を掘り出しているうちに、底から泥水が浸み出てきた。
 - あーっ! 水だあ。(M子)
 - あら、ほんと! (T)
 - のぞきに来たY男、「おーい、こっちは水が出て来た」と大声でK男達に伝える。
 - ほんとだ、本物の井戸だ! (H男)
- (降園時刻となり、中断)

(7月1日、登園後の遊び)

- 「きのうの続きしような。」とK男達が砂場に出る。
- 登園してきた男児が続々と砂場に出て、とうとう男児全員が井戸掘り遊びをする。

女兒も数人、加わる。

- 砂場全体を使い、かけ声をかけ合ったりしながら遊ぶ。
- 砂場の両端に大きな井戸が1つずつ、間に中小の井戸が8つほどできる。その後井戸と井戸の間を溝でつないでいく。
- たまたま、湿った砂の部分を掘った井戸は、底から水が湧き出てくる感じになり、その度、「本当の井戸だ。」と感激の声が上がったり、「冷てえ。」「誰だ、俺に水をかけたのは」「おいしい」「ゴクゴク」など、テレビの井戸掘りの場面の会話が交わされたりする。
- 水気のない所には水を汲んで来て入れ始める。
- 水があふれたり、井戸がこわれたりする度、補修したり、新しく作ったりしながら、約一時間ほど夢中になって遊ぶ姿が見られた。そのうち、どうにも水がせき止められなくなり、井戸も川もなく、大きな水たまりになってしまい、しだいに別の遊びに移っていった。

。考察

- 砂場でダム工事をして遊ぶつもりで穴掘りをしていたK男が穴を掘っているうちに、ふっとテレビで見た動物達の井戸掘りのイメージを思い描き、それがきっかけとなって男児を中心に2日間、井戸掘りごっこが展開された。井戸が生活経験にはない子ども達であるが、この物語においては、井戸は重要な無くてはならないものである。子ども達は、視聴中、井戸を掘る、水が出る、かしこいうさぎが水を盗み飲むといった場面で集中して視聴しており、井戸について印象深く心にとめたものと思われる。また、映像を手がかりとして、井戸をイメ

ージに描くことにより、遊びが展開された。

- K男の「井戸だ！」という一言が大人数での砂場全体を使った井戸掘りごっこにまで展開できたのは、テレビの映像や物語の内容を通して、子ども達が同じようなイメージを持ち、共通の活動への意識を持つことができたからであろう。共通のイメージは、互いに響き合い、遊びを盛り上げる力となる。
- 穴を掘り、井戸のへりをていねいに形づくっていく活動や動物達の会話をまねて試してみることを通して、それぞれに『かしこいうさぎ』の場面、映像を想起し、なぞりながら、各自の受けとめたイメージを具体化し、確かなものにしていったものと思う。
- 瞬時にして消えてしまう映像であるが、砂場での井戸掘りごっこという形で再現、行動化されたことによって、個々の中にイメージ化され、定着がはかられたのではないか。
- 井戸掘りごっこは、イメージを使って遊ぶ楽しさの経験となったのではないか。

(2) 続き話を作る活動から

。活動について

最終回『かしこいうさぎ(3)』の視聴で、子ども達は、かしこいうさぎが動物達に空に向かって投げ捨てられる場面に強くひかれて視聴し、かしこいうさぎがその先どうなったかに関心を示した。画面では、月に行ったようでもあり、月を通過してどこかへ落ちたようでもある。

また、食物を詰めこまれ丸々と太って風船のようになって空に投げ捨てられるという罰を受けることになったかしこいうさぎに対する感情も「かわいそう…」「悪いことをした罰なんだから…(当り前のこと)」などとさまざまであった。

そこで、それぞれの感じたこと、思い描い

たことを続きのお話を想像して作るという活動に展開させ、表現させてみたいと考えた。

方法としては、各自お話の続きを想像して絵にかき、かいた絵の内容を教師に話して、文字を書き込んでもらい、絵本のような形にしあげるようにした。

○子ども達の作ったお話の内容

お話の続きを子ども達が想像した内容をかしていうさぎがどこに行き、どうしたかという点から分けてみると、大体、次のような三つの型に分けられた。

Iの型

(お月さまに行っておもちつきをしているという内容)

番号	氏名	想像した続き話の内容
1	K・K子	○動物たちに投げられて、かしていうさぎは、お月さまのところに行っておもちつきをしています。
2	N・O子	○空にとばされて、うさぎは月に行きました。月でおもちつきをしました。
3	Y・T子	○うさぎさんは、ポンと投げられてお月さまのところへ行きました。そして、毎日おもちつきをしています。
4	M・O男	○うさぎは、一回森に落ちました。でも、破裂しないでポーンと弾んでお月さまに行きました。そして、お月さまでおもちつきをしました。
5	M・O子	○かしていうさぎは、動物たちに投げられてしまいました。うさぎは月までとんでいってしまいました。うさぎがおもちをつき始めるとお星さまと雪が降ってきま

		した。
6	K・O男	○うさぎは、水を飲みに来ました。井戸から水を飲みました。動物たちがおなかいっぱい食べさせて空にとばしました。うさぎはお月さまでもちつきをしました。七夕かざりも飾りました。
7	N・F男	○うさぎは、だんだん、だんだん太ってきました。そして、森一番の高い丘に着きました。しま馬とゴリラが持ち上げて、投げる準備をしました。うさぎはお月さまの方に投げられてとんでいきました。だんだん小さくなっていきました。カバが「落ちて来ないなあ。」と言いました。うさぎはお月さまに行っておもちつきをしていました。
8	T・A子	○動物たちに投げとばされたうさぎは、月までとんで行きました。うさぎは、月でおもちつきをしています。杵でおもちをついたうさぎは、もちを網で焼きました。けれど、おもちはまっ黒こげになって固くて食べられません。しかたなく、うさぎはまたつき始めました。
9	M・S男	○お月さまにうさぎが入っておもちつきをしました。すると雨が降ってきました。雷も鳴りました。うさぎは、ずっと遠い方に隠れました。
	M・Y男	○うさぎはお月さまにとばされて、お月さまに行っても

10		ちつきをしました。おもちつきをしていたら、まちがえて山のとんがり帽子のところに落ちて行ってささってしまいました。ヘリコプターに乗って、また同じ所に戻りました。			みんなとおんなじにしました。
11	M・I子	◦うさぎを投げた動物たちは、しらんぷりして森に帰って行きました。ほうり投げられたうさぎは、月まで行きましたが、おもちをつく道具を忘れてきたので、月にいたお母さんに借りてつきました。あんまり力いっぱいだったので、まちがえて手をたたいたら、手がおもちになってしまいました。	15	K・S男	◦ライオンが帰る時、うさぎがお月さまでおもちつきをしていました。そして、うさぎがおもちを食べました。そして、またまた太りました。風が吹いてお月さまから落っこっちゃいました。そこに木があったので、「あーっ、ひっかかるよう。」と言ってひっかかってしまいました。そして泣いちゃいました。木をゆさぶったら、降りれました。
12	M・S子	◦うさぎはピョンと月までとんでいきました。月に着いたうさぎには、すぐお友だちができました。お友だちと一緒におもちつきを始めました。うさぎさんが太陽だと思っていたのは、マーガレットというかわいいお花でした。	16	H・E男	◦うさぎがお月さまでおもちつきをしていました。「お味は、どうかな。」と言って食べてみました。動物たちが空の上を見ていました。うさぎは、おばけやしきの方を見ていました。下では動物たちが『十五夜お月さま』を歌っていました。ドラキュラがうさぎに近づいて来ました。「一緒におもちつきがしたいなあ。」と言いました。うさぎは怖いから逃げました。うさぎは流れ星で逃げました。ジャンプ台からピョンとプールにとびこみました。うさぎは、太っているから浮かびました。 うさぎは助かりました。
13	S・S男	◦月に行っておもちつきをしたら、遠くの方にうちが見えました。だから、そこで暮そうと思いました。			
14	T・I男	◦うさぎはお月さまでおもちつきをしました。毎日毎晩おもちつきをしました。今まで怠けた分働いて、あとは地球に戻ってきました。ちょっとだけ昼寝をして、そして起きました。あとは、			

II の型

(お月さまに行って、おもちつき以外の
事をするという内容)

番号	氏名	想像した続き話の内容
1	S・Y男	○うさぎは木星を通過して月に行きました。月に行ったら、おなかが元通りになりました。そして、森を見ました。
2	R・T子	○うさぎは、すうっととんで月までとんでいきました。うさぎは遊びに行こうと思って星の橋を歩いて天の川まで行きました。
3	E・K子	○うさぎの着いた所は月の下でした。そして、うさぎは虹のすべり台を登って月に行きました。そして、月のうさぎと友だちになりました。一緒に暮らすことになりました。
4	Y・K男	○かசிいうさぎはとばされて、お月さまが三日月になった晩、三日月のはじっこにぶらさがっていました。そして、はげたかがとんできてようすを見ました。そして、ライオンに「うさぎは天使に矢をさされて破裂していました。」と言いました。そして、うさぎはおなかを破裂したまま、気絶してしまいました。
5	M・T男	○投げられちゃって、お月さまに行きました。そして、お月さまで眠りました。そして、起きてきつと「下に降りたいな。」と言っている。

		ます。その時、お月さまから落ちそうになりました。
6	A・I子	○ライオンと小鳥はうさぎを投げました。けれども、うさぎは落ちて来ません。小鳥はどうしたんだろうと月まで見に行きました。月ではうさぎがおなかが苦しくて、まぶしくてしかたがありませんでした。あんまりまぶしくて、おなかがパン!! と破裂してしまいました。するとどうでしょう。うさぎは元のかசிいうさぎに戻ってしまいました。月に見に行った小鳥は、あんまりまぶしくてかわいそうに死んでしまいました。
7	Y・Y男	○このうさぎは、あんまり悪いことをしたので、お月さまに行く途中で木にぶつかりました。あんまり強くぶつかったので、岩にはねかえってやっとお月さまに行きました。
8	Y・I男	○風船になってとばされて、お月さまに入っちゃった。その次は木にぶつかって、それからまた、岩にぶつかってまたお月さまに戻りました。そして、お月さまの中で迷子になっちゃった。「どこへ行ったらいいかわかんない。」 ペンギンがお月さまを見て言いました。「うさぎはどこに行ったかわからない。誰も知らない。」

9	M・O子	<ul style="list-style-type: none"> うさぎは、しま馬と熊に投げとばされました。うさぎは月までとんでいきました。月の神さまに怒られたうさぎは神さまに投げられて木にひっかかりました。
10	H・H子	<ul style="list-style-type: none"> うさぎさんは月に行きました。月はお花でいっぱいでした。うさぎさんはお花畑を見ていました。それから、お花を摘みに行きました。もっと下に行って摘もうと思いました。摘んだお花はコップに飾りました。一生懸命お花を摘んだので、うさぎさんのおなかも元に戻りました。
11	Y・I子	<ul style="list-style-type: none"> 投げられて月に着いたうさぎは、月の上でお母さんに会いました。月のおうちのお部屋は4つありました。一番奥の部屋が一番大きな部屋でした。二番目の部屋では、お父さんが寝ていました。うさぎは月で暮らしました。
12	A・N子	<ul style="list-style-type: none"> 月に着いたうさぎは、おしゃれをしました。月でお姉さんに会いました。
13	K・M子	<ul style="list-style-type: none"> うさぎはお月さまに行きました。そこには星の子がいました。今は夜です。もう星の子は空に出ています。ある朝、うさぎはお月さまから降りて来ました。雲の舟に乗って降りて来ました。そこに女の子がおうちから出て来ました。そして花を

		<ul style="list-style-type: none"> 摘もうとした時、近くの花ががさがさと動きました。よく見ると、うさぎが暴れていました。女の子は抱いておうちに帰って行きました。
14	S・K男	<ul style="list-style-type: none"> うさぎは、羊とバッファローとカバとライオンとはげたかと一緒に森の一番高い崖に登りました。そして、投げようとみんながした時、うさぎのおなかがパンクしそうになって、空気が抜けてきました。ちょうど足がお月さまの頭の所に近づいて吸い込まれそうになりました。
15	Y・M男	<ul style="list-style-type: none"> 熊がうさぎを投げました。うさぎがフィンととんで行って、石が落ちました。お月さまに向かって行きました。回りながらとんで行きました。

Ⅲの型

(お月さま以外のところに行くという内容)

番号	氏名	想像した続き話の内容
1	S・O男	<ul style="list-style-type: none"> 動物たちにとばされて、お月さまを越して山のずっとむこうの湖に行きました。そして湖にドボンと落ちてしまいました。
2	Y・I子	<ul style="list-style-type: none"> うさぎさんは星の国に着きました。星の国には、コンペイ糖のような星の子どもとお母さんとお父さんが住んでいて、うさぎさんとお友だちになって楽しく遊び

		ました。 星の国には子どもが6人いました。星には鉄棒とすべり台がありました。うさぎさんは、星の国の冠をかけてもらいました。
3	M・T子	。投げとばされたうさぎは、大きな袋の上に落ちてしまいました。すると袋は「誰だ！おまえは」と言いました。うさぎは「僕はうさぎです。」と言いました。

。考察

- 。うさぎの行き先について、映像は、月に行ったように見えるが、そうとは言い切れない部分を残した表現となっている。そのため、月以外の所へ行くという発想のものが3人あったが、他はほとんど行き先を月としていた。

また、月に行っておもちつきをしているという発想は、冒頭場面との結びつけであろう。(日本では、月にはうさぎが住んでいると思われているというナレーションで、月の中でおもちつきをしているうさぎが写し出されている。)

いずれにしろ、映像からの連想であり、イメージを描きやすくしている反面、イメージを限定したことにもなる。

- 。うさぎが投げとばされていく描写については、ナレーションには表現されていないが、子ども達がそれぞれに、映像から読みとったことを言葉で表現して補っている面が見られる。

例：ポンと投げられて、ポーンと弾んでピョンと月までとんで、だんだん小さくなっていきました。フィンととんで行って、回りながらとんでい

きました。

- 。映像や物語の内容をもとにしながらも、自分なりの発想でお話を作り出しているものもあり、イメージのふくらみを感じられる。

例：Ⅱ-4, Ⅱ-6, Ⅱ-14

- 。映像や物語の内容からの刺激によって受けとめられたイメージは、ストレートに自分の経験と結びついたり、新たなイメージを呼び起こして、空想へと発展したりして、広がりを見せていくように思われる。
- 。物語の先の展開がどうなっていくかという思いは、子ども達のイメージを湧き立たせ、かく(表現する)ことによって、一層深まりを増していくものと思われる。
- 。友だちの作ったお話を聞かせてやることで、お互いのイメージの交流ができ、よい刺激となったように思う。

4. イメージを育てるために

人形劇の視聴を通して豊かなイメージを育てていくためには、次のような配慮が大切ではないかと考える。

- 。映像はイメージを限定するとも言われるが、まだ想像力の十分発達していない幼児は、映像によるイメージづくりを手がかりとして物語の世界を心の中に築いていく。映像によって作られる鮮明なイメージは、幼児の想像力を補い、豊かにする役割をもつ。このような映像のもつ効果を生かしながら、個に応じた映像の読みとりをさせていく。
- 。映像によって得たイメージを自分の経験からのイメージと照らし合わせながら、多様なイメージへと広がりとしふくらみを持たせていくようにする。
- 。登場人物に同化し、心をゆり動かして視聴することを経験させながら、さまざまな感情を伴ったイメージを蓄えさせていく。
- 。ひとつひとつのイメージから類推によって次々とイメージを結んでいけるような手がかり

- を与えていくようにする。
- 子どもの描いたイメージを引き出すようにし、共感をもって受けとめ、個々のイメージの有り様を大事に扱っていく。
 - 共通のイメージが呼び起こす共感や友だちとのかかわり合いを大事にした活動の展開が、図られるようにする。

あ と が き

実践を振り返りながら、今、再び、「イメージとは何か」「イメージはどのように発達していくものなのか」「イメージと知能、ことばの発達とのかかわりは」「イメージをとらえる方法は」「そしてイメージを育てる指導とは」と思いめぐらし、結局は、「難しい」「解らない」というスタート地点に立ち戻ってしまっていることに気づくという結果である。

子どもの心の内側で成長し続けているイメージは、ひとりひとりの心の内部だけのものであり、外に表わされない限り、伺い知ることができない。たとえ、表現されたとしても、そのイメージを正しくとらえることは難しい。数値で表わしたり、分析したりすることのできない代物である。あくまでも推し測るのみであり、想像するという域を出ない。とするならば、イメージを育てる指導もまた、子どもの言動により注意深い目を向け、その心を感じとり、心を通わせながら細々と対応を図っていく努力を重ね、その心に豊かなイメージが育ってほしいと願う日々の保育の営みということであろうか。

参 考 文 献

- 1) 佐々木正人(1982)：視覚イメージ化方略の発達，教育心理学研究30，3，28-36。
- 2) 沢田允茂(1977) 認識とイメージ，数理科学 No.165，5-8。
- 3) 生野金三(1981)：イメージの諸様相，教育方法学研究7，67-74。
- 4) 井上志朗，後藤忠彦，小林秀臣，子安一徳，松岡博，横山隆光，西脇憲保(1982)：TV視聴後の想起による学習効果，日本科学教育学会年会 D-2，175-176。
- 5) 中沢和子(1979) イメージの誕生，日本放送出版協会。

キーワード：幼児教育，放送教育(TV)，人形劇，イメージ(心像)